

異常集積疑い事例実績に係る検証について

◆ 報道概要

2024 年 7 月 16 日午後、大田区の都立高校で、市販されている激辛のポテトチップスを食べた多数の生徒が体調不良を訴え、14 人が病院に搬送された。生徒達は、口や胃の痛みを訴えたが、いずれも軽症だった。

1 救急搬送サーベイランスシステムからのアラート検出

翌 17 日に、病態分類「嘔吐・嘔気」が 3 件ヒットしたことによるアラートが発信され、健康安全研究センター（以下、健安研）から防疫課に対応協議された。（アラートレベル 4）

【防疫課からは、健安研に下記事項を追加確認】

- ・このアラートは、7 月 16 日の「激辛チップス」事件による搬送案件か？
- ・傷病発生事由は、ニュース報道内容によるものだけか？それ以外の要因があるか？
- ・報道では 14 名の搬送情報だが、システム検出の搬送者数 3 名に間違いはないか？

【健安研から保健所・医療機関に確認】

- ・本システムでは病態分類「嘔吐・嘔気」に該当する 3 件を検出
- ・激辛チップス摂取を要因とする搬送のみで、感染症起因の搬送事案はない。

2 消防庁より情報収集

2024 年 7 月 16 日午前 9 時 14 分、東京の高校生 15 人が高校で激辛ポテトチップスを食べ、そのうち 14 人が救急車で病院に搬送。救急車で搬送されたときの主な症状は、頭痛、腹痛、嘔吐であり、そのうち 2 人が中等症と評価され、12 人が軽症だった。

3 事案検証

- ・本事案は、直接感染症には関係はなかったが、アラート検出できたことは、隠れた感染症事案も発見できる可能性を示した。
- ・一方、14 名の搬送実績に対し、3 名分の抽出のみに留まっていることは、アラート検出機能の設定方法等について、検討の余地を残すものとする。